

**2018年度
短信補足資料**
(2019年3月期)

2019年5月8日

不二製油グループ本社株式会社

目次

1	連結損益概要(4Q : 3ヶ月実績)	…	3 ページ
2	2018年度連結損益概要	…	4
3	連結 貸借対照表	…	5
4	連結 キャッシュ・フロー	…	5
5	2019年度通期業績予想	…	6
6	連結 指標	…	7
7	設備投資額・減価償却費の推移	…	8
8	配当の推移	…	8

◆ 1. 連結損益概要(4Q : 3ヶ月実績)

第4四半期 (3ヶ月実績)

(単位：億円)

		17年度 4Q	18年度 4Q	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高※	油脂	293	266	▲27	▲9.2%
	製菓・製パン素材	391	390	▲1	▲0.2%
	大豆	88	86	▲3	▲3.2%
	合計	772	742	▲30	▲3.9%
営業利益※	油脂	19	18	▲1	▲5.5%
	製菓・製パン素材	32	13	▲18	▲57.7%
	大豆	5	6	+1	+17.7%
	連結調整・グループ管理費用	▲10	▲12	▲2	▲23.1%
	合計	47	26	▲21	▲44.4%
営業利益率		6.0%	3.5%	▲2.5pt	-
経常利益		44	25	▲19	▲42.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益		27	26	▲1	▲3.9%

※売上高は、18年度からフジオイルタイランド社のセグメントを油脂部門から製菓・製パン素材部門にセグメント変更。対前年同期比は修正済み。
 営業利益は、17年度までグループ管理費用を各セグメントに配分していたが、18年度からは、グループ管理費用を外出して計上。
 17年度4Qは遡及修正済み。18年度の増減額、増減率は17年度のグループ管理費用を外部に計上した数値。

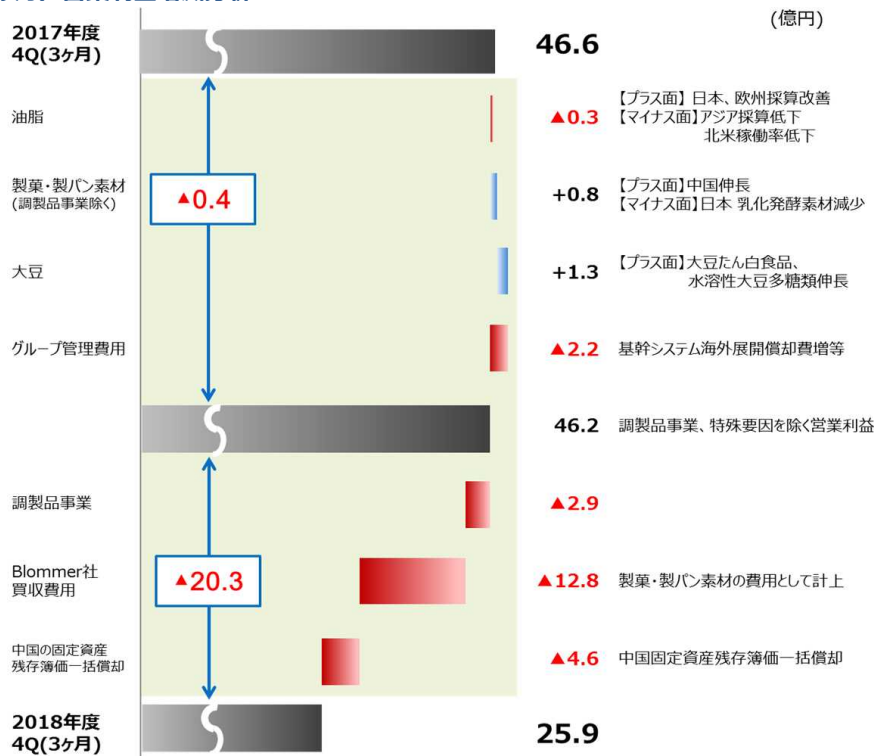
決算のポイント(4Q : 3ヶ月実績)

営業利益

・4Qの営業利益は、アジアや米州の不振に加え、Blommer買収費用（13億円）、中国の残存簿価の一括償却（5億円）等により減益も、日本の油脂が堅調に推移したことから、2019年2月修正計画から約5億円上振れて着地。

- ・ **油脂** ・日本での採算重視の販売、欧州の採算改善等があったものの、アジア、米州の減益により、全体で減益。
- ・ **製菓・製パン素材** ・中国のフィリング・マーガリンが堅調だったものの、アジアでの調製品事業の下振れ、また、Blommer買収費用の計上等により減益。
- ・ **大豆** ・大豆たん白食品や水溶性大豆多糖類の販売の改善などにより、増益。

4Q (3ヶ月) 営業利益増減分析



◆ 2. 2018年度連結損益概要

2018年度

(単位：億円)

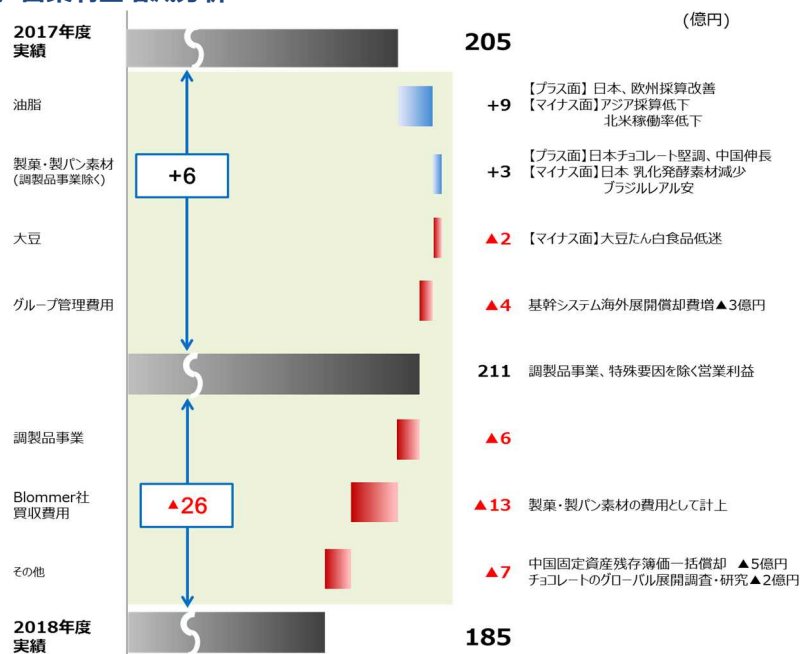
		17年度	18年度	前期比	
				増減額	増減率
売上高	油脂	1,136	1,097	▲39	▲3.4%
	製菓・製パン素材	1,561	1,551	▲10	▲0.6%
	大豆	380	361	▲19	▲5.0%
	合計	3,076	3,008	▲68	▲2.2%
営業利益	油脂	73	81	+9	+11.8%
	製菓・製パン素材	130	108	▲22	▲17.0%
	大豆	35	33	▲3	▲7.3%
	連結調整・グループ管理費用	▲33	▲37	▲4	▲10.8%
	合計	205	185	▲20	▲9.5%
営業利益率		6.7%	6.2%	▲0.5pt	—
経常利益		200	182	▲18	▲9.0%
親会社株主に帰属する当期純利益		137	116	▲22	▲15.7%
EBITDA		310	300	▲10	▲3.4%
ROE		8.8%	7.3%	▲1.5pt	—
営業キャッシュフロー		282	226	▲56	▲19.7%
投資キャッシュフロー		▲145	▲791	▲646	▲445.1%
フリーキャッシュフロー		137	▲565	▲702	—
NET有利子負債		436	1,392	+956	+219.3%
NET運転資本		633	171	▲463	▲73.0%
NET有利子負債/EBITDA		1.4倍	4.6倍	+3.2倍	—
CCC(キャッシュコンバージョンサイクル)		103日	※ 105日	▲2日	—

※FY2018期末はBlommerを除く既存事業

決算のポイント（18年度通期）

- 営業利益** ・油脂部門では、日本、欧州などの伸長により増益だったものの、製菓・製パン素材部門の調製品事業の低迷、大豆部門の減益に加えBlommer社買収の費用計上（13億円）、中国の固定資産残存簿価一括償却の計上（5億円）等により減益となった。
- ・**油脂** ・北米での寒波・ハリケーンの影響による稼働低下、アジアで油脂のコモディティ品等の販売低迷があったものの、日本での採算を重視した販売の継続、欧州での原材料の採算改善により増益となった。
- ・**製菓・製パン素材** ・日本でのチョコレートや、中国でのフリンギング、マーガリンの堅調な販売が続いたものの、Blommer買収費用の計上、アジアでの調製品事業の乳製品価格の影響、米州でのレアル安の影響などにより減益となった。
- ・**大豆** ・大豆たん白食品の設備修繕による工場の休止及び工場再開後の販売低迷により、減益となった。
- 当期純利益** ・吉林不二蛋白有限公司の減損、災害による損失等により特別損失を計上。
- CCC** ・Blommerを除く既存事業で105日、Blommer単独では137日。

2018年度 営業利益増減分析



◆3. 連結 貸借対照表

(単位：億円)

	17年度 期末	18年度 期末	前期末比	主な増減要因
流動資産	1,308	1,854	+546	現預金、売上債権、棚卸資産の増加
固定資産	1,399	1,980	+581	のれんの増加
資産合計	2,707	3,834	+1,127	
有利子負債	566	1,605	+1,038	借入金増加
その他負債	492	637	+145	買掛金の増加、未払金の増加
負債合計	1,058	2,242	+1,183	
純資産合計	1,649	1,592	▲57	資本剰余金の減少、 為替換算調整勘定の減少

ポイント（18年度期末）

資産の部：Blommer買収に伴い、流動資産では棚卸資産が、固定資産では有形固定資産及びのれんが増加したことから、2018年度期末の資産合計は3,834億円（2017年度期末比+1,127億円）と大幅に増加した。

負債の部：Blommer買収に伴い、短期借入金が17年度期末比+945億円、長期借入金が同+143億円それぞれ増加したことを要因に、2018年度期末の負債合計は2,242億円（2017年度期末比+1,183億円）と大幅に増加した。

純資産の部：株主資本は、利益剰余金の増加により増加したものの、その他の包括利益累計額合計が、為替換算調整勘定の減少により減少したことから、2018年度期末の純資産合計は1,592億円（2017年度期末比▲57億円）と減少した。

◆4. 連結 キャッシュ・フロー

(単位：億円)

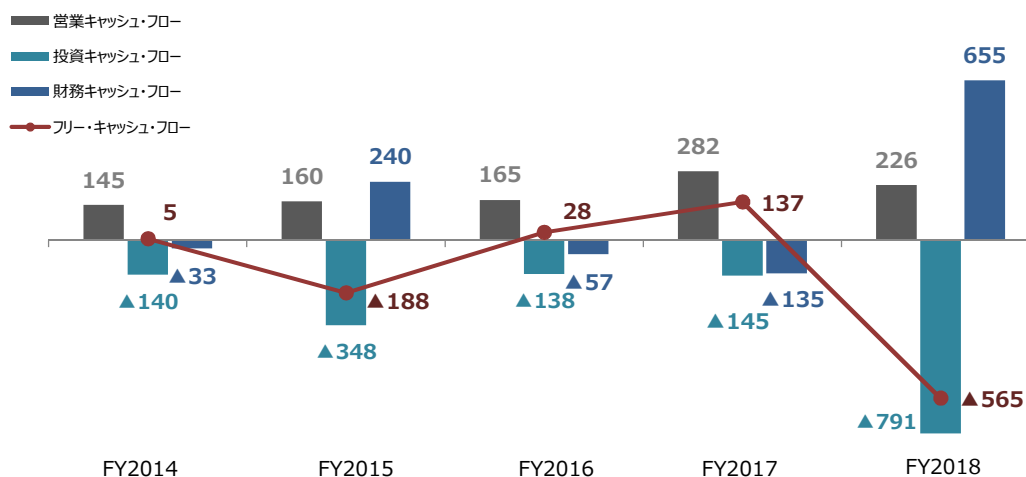
	17年度	18年度	前年同期比	主な増減要因
税金等調整前当期純利益	188	165	▲23	利益の減少のために減少
減価償却費	109	120	+11	
他増減	▲15	▲59	▲44	売上債権の減少、たな卸資産は増加
営業キャッシュ・フロー	282	226	▲56	
投資キャッシュ・フロー	▲145	▲791	▲646	Blommer買収のため増加
フリー・キャッシュ・フロー	137	▲565	▲702	
借入金等による調達・返済	▲92	754	+846	Blommer買収のための借入金増加
配当金支払等其他	▲43	▲99	▲57	
財務キャッシュ・フロー	▲135	655	+789	
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	2	-	▲2	
現金及び現金同等物増減額	1	82	+81	
現金及び現金同等物残高	130	212	+82	投資は増加したものの、借入による財務の増加により、増加

(注)・減価償却費には、有形固定資産及び無形固定資産等の償却費を含めています。

・現金及び現金同等物増減には、現金及び現金同等物に係る換算差額を含めています。

キャッシュ・フロー

(単位：億円)



◆5. 2019年度通期業績予想

2019年度通期業績予想

(単位：億円)

	18年度 実績	19年度 予想	前期比		
			増減額	増減率	
売上高	植物性油脂	1,097	1,139	+42	+3.9%
	業務用チョコレート	686	1,874	+1,188	+173.3%
	乳化・発酵素材	865	915	+50	+5.8%
	大豆加工素材	361	372	+11	+3.0%
	合計	3,008	4,300	+1,292	+42.9%
営業利益	植物性油脂	81	91	+9	+11.5%
	業務用チョコレート	74	103	+29	+38.5%
	乳化・発酵素材	33	43	+10	+29.5%
	大豆加工素材	33	41	+8	+25.6%
	連結調整・グループ管理費用	▲37	▲38	▲1	▲3.9%
合計	185	240	+55	+29.5%	
営業利益率	6.2%	5.6%	▲0.6pt	-	
経常利益	182	220	+38	+21.0%	
親会社株主に帰属する当期純利益	116	152	+36	+31.2%	

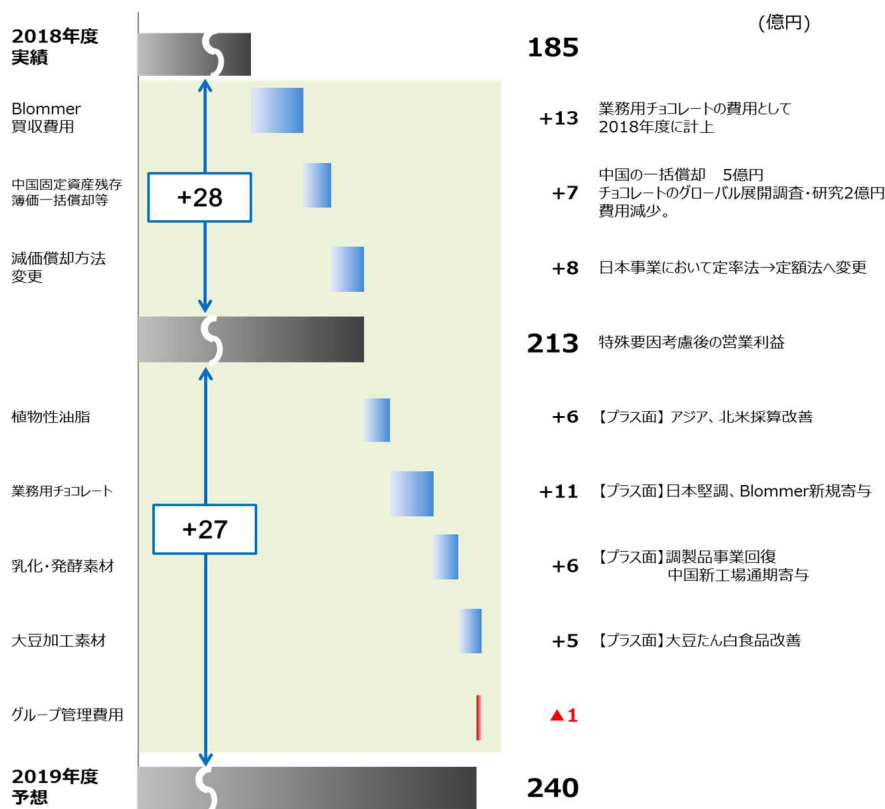
※19年度にセグメント変更を実施。製菓・製パン素材部門を、業務用チョコレート部門と乳化・発酵素材部門に変更。

また、セグメント名を油脂部門を植物性油脂部門、大豆部門を大豆加工素材部門にそれぞれ変更。18年度は遡及修正済み。

決算のポイント（19年度通期）

- 営業利益**
- 植物性油脂部門での、アジアや米州の回復を見込むことに加え、業務用チョコレート部門ではBlommer買収費用の減少とBlommer新規連結寄与、日本での減価償却方法の変更（定率法→定額法、+8億円）、日本での業務用チョコレート部門の伸長、また、大豆加工素材部門での大豆たん白食品の改善等により、増益を計画。
- ・植物性油脂**
- 日本、欧州では、原料改善効果の一巡を見込むものの、東南アジアではチョコレート用油脂を中心に販売拡大、北米での寒波・ハリケーンの影響がなくなることやチョコレート用油脂の販売伸長などにより、全体で増益計画。
- ・業務用チョコレート**
- Blommer買収費用の減少、また、Blommerの新規連結により増益を計画。
 - 地域別では、日本でのカラーチョコレートの伸長、アジアや中国の伸長を計画。
- ・乳化・発酵素材**
- 日本では販売先の拡大や顧客ニーズに応じた製品の開発による伸長に加え、中国では新工場の通期寄与などにより増益を計画。
- ・大豆加工素材**
- 大豆たん白食品の販売回復、水溶性大豆多糖類等の機能剤の販売伸長などにより増益を計画。

2019年度営業利益増減分析



◆6. 連結 指標

(単位：億円)

	16年度 実績	17年度 実績	18年度 実績	19年度 予想
EBITDA	299	310	300	392
設備投資額	136	147	159	220
減価償却費	96	100	110	152
有利子負債	657	566	1,605	1,535
NET有利子負債	529	436	1,392	1,366
NET運転資本	629	633	171	745
NET有利子負債/EBITDA	1.8	1.4	4.6	3.5
1株当たり純資産	1,754円	1,864円	1,820円	1,954円
自己資本比率	55.4%	59.2%	40.8%	42.7%
D/レシオ	0.44	0.35	1.03	0.91
Net D/レシオ	0.36	0.28	0.87	0.80
営業キャッシュフロー	165	282	226	320
フリーキャッシュフロー	28	137	▲565	101
ROE	8.3%	8.8%	7.3%	9.4%
ROA	7.3%	7.4%	5.5%	5.7%
売上高営業利益率	6.7%	6.7%	6.2%	5.6%
CCC	110日	103日	※ 105日	105日

(注)・減価償却費は、有形固定資産の減価償却費を表示しています。

・純資産は非支配株主持分を除いた普通株式に係る純資産額を表示しています。

・D/レシオ = 有利子負債 ÷ 自己資本

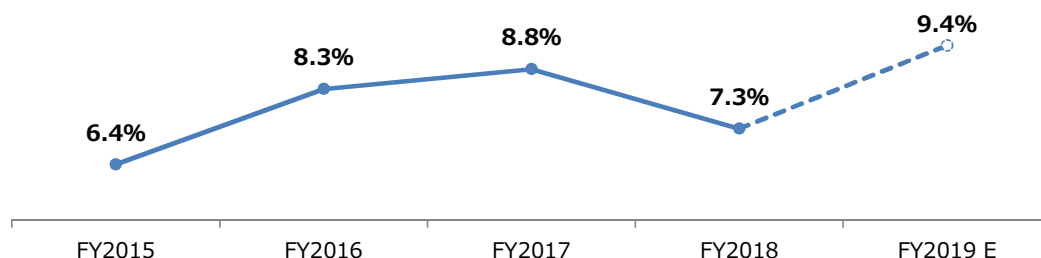
・Net D/レシオ = Net有利子負債 (有利子負債 - 現預金) ÷ 株主資本

・ROE = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 自己資本 (期首と期末の平均値)

・ROA = 経常利益 ÷ 総資産 (期首と期末の平均値)

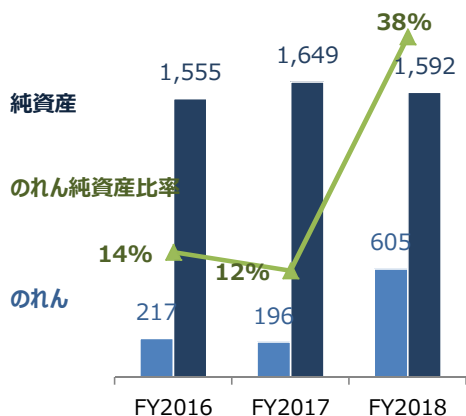
※2018年度のCCCはBlommerを除く既存事業

ROE

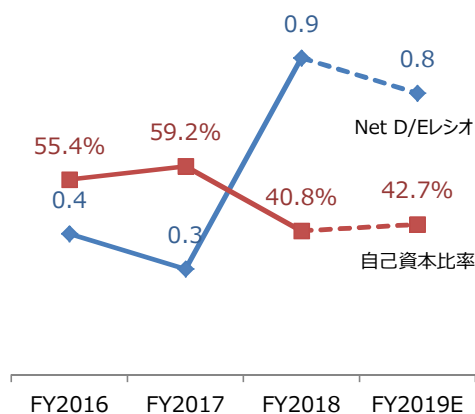


のれん純資産比率

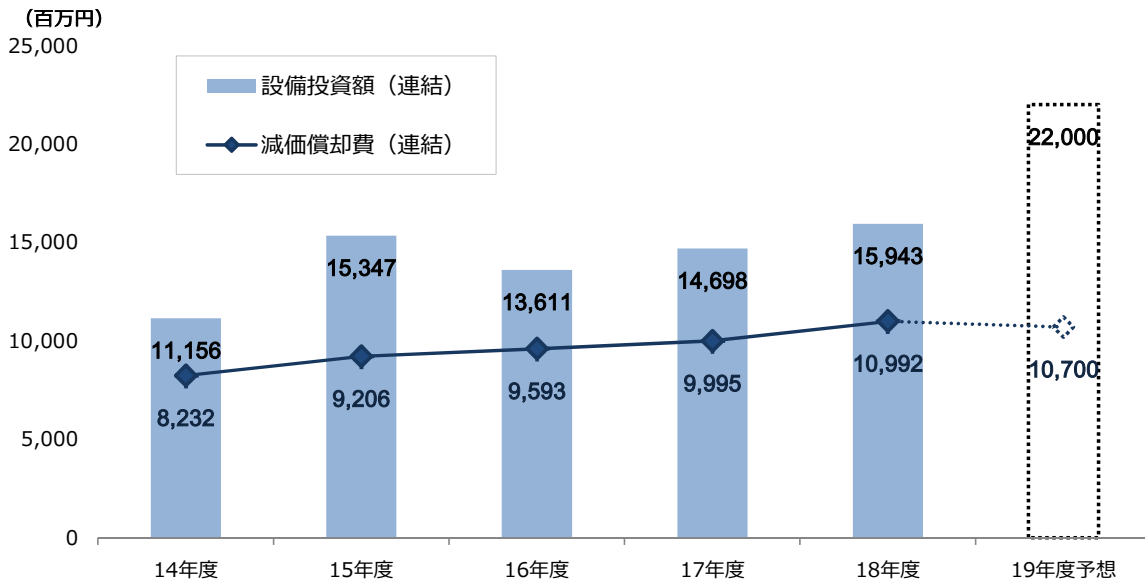
(単位：億円)



Net D/レシオ 自己資本比率

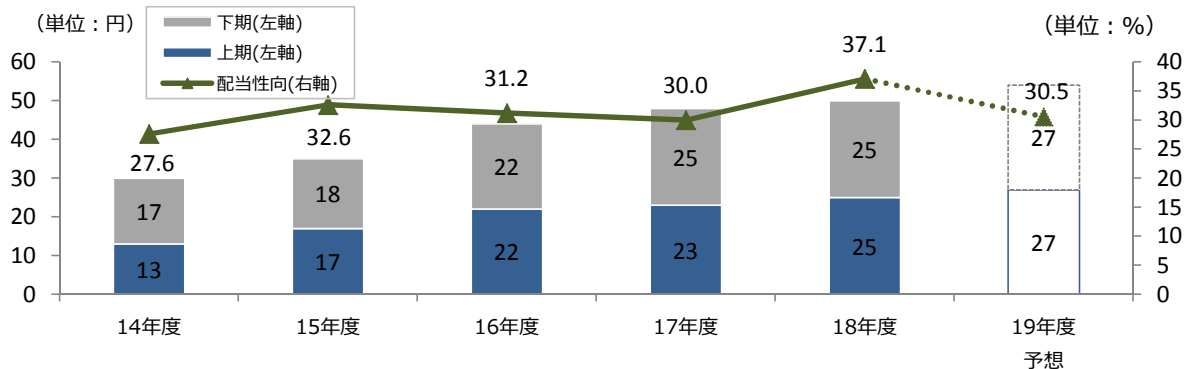


◆7.設備投資額・減価償却費の推移



2018年度実績		2019年度計画	
設備投資	159億円	設備投資	220億円
＜主な投資内容＞		＜主な投資内容＞	
・中国 フィリング・マーガリン 新拠点設立	23億円	・北米 油脂 新拠点設立	51億円
・北米 油脂 新拠点設立等	12億円	・Blommer設備投資	13億円
減価償却	110億円	減価償却	107億円

◆8.配当の推移



単位：円

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度 予想
上期	12	12	13	13	17	22	23	25	27
下期	12	13	13	17	18	22	25	25	27
配当性向	24.9%	25.8%	27.4%	27.6%	32.6%	31.2%	30.0%	37.1%	30.5%
合計	24	25	26	30	35	44	48	50	54